

販路開拓目指しインドネシアへ

千曲の6社が現地視察

金型や部品加工を手掛ける千曲市の企業6社が8日、海外への販路開拓を目指し、インドネシアの首都ジャカルタを訪問、現地企業を視察する。国内の景気低迷が続く中、需要拡大が望める海外市場に各社のものづくりの技術をPRし、仕事の受注につなげる狙いだ。

千曲商工会議所（千曲市） 択されたのを受け、実現した。の取り組みが国の「地域産業 視察には各社の代表者など9 集積海外展開支援事業」に採 人が参加。8～11日の滞在中、



滝沢社長と、インドネシアに持参する製品

日系企業を中心に8社の工場 などを見学する。意見交換の 場を設け、現地企業の担当 者から需要や抱える課題など を聞くとともに、それぞれ自 社が扱う製品、分野を説明す る。この「インドネシア」

今回の海外視察は、同商 工会議所、戸倉上山田商工会 （同市）、市産業支援セン ターが連携して実施。日本と 経済連携協定（EPA）を結 んでいる点などを考慮し、視 察先にインドネシアを選ん だ。12月には同国の展示会

8日から 金型・加工の技術PR

に、6社の製品を出品する予定だ。

「現地企業が何を求め、われわれがどのように協力できるのか知りたい」。参加企業の一つ、プラスチック金型設計・製作の滝沢工研の滝沢幸一社長（58）は視察の目的をそう話す。「ゆくゆく国内では仕事が増えることが必要だ」とし、「技術をアピールし、仕事の受注につなげたい」と期待を込める。

5月末には千曲商工会議所で3回目の会合を開き、現地での日程を確認した。市産業支援センターの技術アドバイザー、土屋康雄さん（64）は「1社だけでは海外の販路開拓まで手が回りにくかった。企業が協力して取り組むことで仕事を受注する可能性はある」と話している。